



北三瓶小学校の運動会に参加して

去年、一月のある日のことです。

四月から五年生になる千織が、四年生の夏休みに短期《山村留学》した体験から自信がついたのか、「パパ、ママ、お願い! 五年生になったら、一年間、三瓶こだま学園の長期山村留学に行かせて!」と、言ってきました。前々から、千織は独りで考えていたようで、真剣な眼差しで、心に秘めていた想いを、私と主人に打ち明けてきたのです。

千織の思い詰めた願いを聞いていた主人は、「千織が、そこまで言うのなら、一度、自分の目で、三瓶の山村留学先を確認してみよう」と言って、千織と二人で、島根県大田市山口町の《山村留学センター・三瓶こだま学園》に向けて出発しました。

山村留学センターや北三瓶小学校などを視察して帰っ

てきた主人と晴れやかな表情の千織。

普段、無口な主人から、次から次にと溢れんばかりに出てくる言葉は、《島根の自然の豊かさ、三瓶こだま学園や北三瓶小学校の環境の良さ……》に深く感動して、「この環境なら千織にとっても意義のある貴重な体験になる。あなたが、納得できれば、是非、行かせてあげたい!」と、二人で、私に説得をはじめたのです。

母親としてみれば、五年生の女の子は成長期で、思春期に入る年齢だし、千織が一年間、親元を離れて生活することに不安と戸惑いがありました。

それで、二人に即答は出来ず、何日か考え悩みました。私が十歳のころは、親元から離れて生活するなんて考えたこともありませんでした。『行かせることが千織の為になるだろうか……』と、いろんな事を想像し、考え、迷い、葛藤がありました。

けれども、千織が初めて、『自分の気持ちや一年間自分の力を試してみたい!』という思いを私達両親に訴えているし、主人も千織の挑戦を応援してあげようと言っていたし、千織と主人が現地で感じたことを私も信じて、千織の思いを応援することに決めました。

二〇一〇年四月から、千織は島根県にある【三瓶こだま学園】に山村留学し、北三瓶小学校へ転校することに

北三瓶小学校の校門に佇む
末っ子の千風子ちゃん。



なりました。

私は、千織と離れて生活することを決心し、覚悟を決めていたものの、旅立つ日が近づくにつれ、ちいさな頃、パパ、ママ……と言っていた時の事や、反抗期に兄妹喧嘩や親子喧嘩などしたことを思い出し、荷造りをしながら涙が止まりませんでした。

出発の朝、千織には内緒で地元小学校の友だち、幼児期にお世話になった【ちいさいおうち共同保育園】の保育士さん、加来歯科医院のスタッフ、それと、家族からの温かいメッセージが寄せられたアルバムを千織のリュックに、私の思いと一緒に詰め込みました。私は小倉駅まで見送り、千織に「行ってらっしゃい！」と笑顔で手を振ったあとは振り向くことができませんでした。千織の前では絶対に涙は見せないように決めていたのです。

千織が島根に行つて数日経つてハガキを送りました。山村留学では親子間の電話はできません。親子行事があ

るときにしか会いにもいけません。親子間でのコミュニケーションはハガキでの文通だけなのです。「元気かな？」「ホームシックになつてはいないかな？」と思いつつも、寂しく思うようなことは書かず、一枚の葉書にぎつしりと、日常生活の話などを書きました。

千織からの最初のハガキは、住所は書いていたものの宛名が「おとうさん・おかあさん」で届いたので、千織らしいとクスマと笑ってしまいました。

「ママへ……ハガキ送つてくれてありがとう。ママのハガキ見て泣いちゃった。こんな体験慣れてないから、一週間でもう無理。これって、ホームシックなんやかあ。ママのハガキ見るたびに泣いちゃう。どうしよう……まだ始まったばかりやけ、頑張る！ それから、寄せ書きのアルバムありがとう。毎日見てる。写真もついていたから、センターの指導員さんや友だちにも見せたよ」

「パパへ。寄せ書き見るたびに涙が出るんよ。一年間って、長いんやね……。もう、きつい。本言つて、もう帰りたい。けど、頑張るね！ お兄ちゃん、勉強頑張つて！ 兄ちゃんなら、絶対、受験、大丈夫よ。千風子へ、おねえちゃんにはセミが鳴くころかえるからね！ 保育園頑張つてね」と、ぎつしり書いてありました。

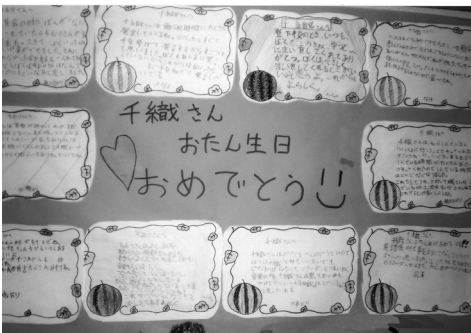
ホームシックになりながらも前向きに、自分で決めたことに挑戦しようとして頑張つてる千織が目につくたび、ハガキを読んで涙が止まりませんでした。声が聞きたい、話

がしたい、連れて帰りたい……と、子離れができてないのは私の方かもしれません。

一カ月が過ぎて、五月に親子リクレーションと田圃の代掻きに主人は三瓶へ。私は、千畝、千風子、義父と留守番。主人がビデオを撮ってきてくれたので、すぐに観ました。

千織の元気な姿を観ると、ホッとしました。けれど、主人は帰る時、千織を連れて帰りたくなつたそうです。やはり、子離れできないのは親の方かもしれません。子どもは時間が経つと、その環境に慣れて順応していく力があります。ホームシックから立ち直つた千織は大丈夫だったようです。

小学校の二階の壁面に貼られた
全校児童から寄せられた千織への
『誕生日』のメッセージ。



でも、親の前では、強がりや弱音を吐かない子なので、我慢をしているのかもしれない……。

日が経つにつれて、千織からのハガキも、「キャンプに行つたよ！ 友だちがいっぱいでできて楽しいよ！ 農業体験、したよ！ 農家の父さん、母さんは優しくて、いい人だよ！」等の文章が変わってきました。

数ヶ月経ち、夏になり、セミも鳴き始めました。いよいよ、夏休み。セミが鳴く声を聞いて、「お姉ちゃんにあえる！」と一番喜んでいたのは、四歳の妹の千風子（ちかこ）でした。千織が北三瓶に行つてから、「セミはいつ鳴くの？」と、毎日聞いていた千風子。

夏休みの一ヶ月間は、実家で親に甘え、のんびりと過ごし、地元の友だちとも遊び、千風子が通い千織も卒園した【ちいさいおうち共同保育園】にお手伝いに行つたりして、あつというまに楽しかった夏休みも終わり、千織は、また、島根に帰っていききました。この日も私は小倉駅まで行つて見送り、主人は千織を広島駅まで送って、そこで別れました。

千織は一人で広島駅から【出雲行き】のバスに乗り、頓原で降り、そこにこだま学園の指導員さんと待ち合わせです。

千織がいなくなると、打上花火が終つた後のような感

じで、家の中が静かになり、私は、また、淋しさで押し潰されそうでした。

それを察したのか、千風子が私の前で上機嫌に振舞っていました。私は子供から支えられています。

千織からハガキが届きました。

「夏休みが楽しかったから、また、ホームシックになって、毎日、お家のことばかり考えているんよ。皆が元氣か心配しています。センターでも学校でも泣きそうになるけど泣けないから、毎日トイレで、泣いているんよ……。夏に帰省したときは、六年生まで山村留学で頑張つて、残りたい！」と言っていたけど、ヤッパリ無理……。来年は中間に戻つて、家族と一緒に暮らしたい……」

と、書いてありました。私は、また、胸が苦しく切なくなりましたが、そのうち、また、楽しいハガキが来るだろうと思ひ、今回は、早く冷静になりました。

なぜなら、「三瓶こだま学園」や「大田市」のホームページに載っている千織の姿はホームシックになっているものの、「山留」での生活が毎日充実し生き生きとした顔をしていたからです。千織には、九月の運動会の時に家族と会えるからその日まで頑張れるように楽しい葉書を送りました。



やっと会えた千織お姉ちゃんに抱かれて大満足のチカコちゃん

目に飛びこんでくる全てのものが初めて見るものばかりなのに、何故か懐かしさを感じる香り。

校舎は全て木造建築で、ほんとうに、柔らかい「木づくり」の豊かな温もりにあふれた北三瓶小学校でした。

長い間、福岡県の教育庁勤務だった義父は、熱心に、北三瓶小学校の「うち・そと」を見つめて、感嘆しきりでした。主人は、我が意を得たりとばかり、私と義父にセンターと小学校の説明を続けていました。

女性の校長先生と担任の女性の先生が、職員室からわざわざ出てこられて、「是非、校内を一巡されて下さい。さあ、どうぞ……」と、担任の先生が先導されて、玄関

いよいよ九月十一日、運動会に行く日になりました。お兄ちゃんの千畝は来春中学入試を控えている為、猛勉強中なので、私の実家に世話になり、留守番です。運動会には主人、千風子、義父そして私と四人で車で行くことになりました。

私は初めての島根行きです。センターにも、里親さんにも、北三瓶小学校にも初めてお会いする旅路です。そして、山村留學生の保護者の皆さんにも初めてお会いするのです。私は、胸がドキドキ、ワクワクでした。

車で六時間、やっと到着！ まず留学センターの【こだま学園】に行き、センターの指導員にお会いして、北三瓶小学校へ向かいました。センターから学校まで2キロですが、ホームステイの農家さんの家から学校までは5キロの道程。道はアスファルトで舗装されているものの傾斜もあり、毎日この道を千織は歩いて通っているんだと思うと、涙が溢れてきました。たぶん子ども達にしてみれば、慣れてしまえばたいした事のない距離かもしれませんが、私は普段から車人間で、歩いて所用をすますなどありません。自分が生活している便利さが情けなく、千織に申し訳なく感じた瞬間でした。

北三瓶小学校に着き、「ここが学校？」と、目を疑うほどの素敵な校舎と周囲の環境の素晴らしい風景。私の

から二階へと案内して頂きました。階段を上ると直ぐの壁面に、八月生れのお友達に全校児童から寄せられたメッセージが飾ってありました。ちょうど、千織は八月十八日生まれでしたから、千織に、児童一人ひとりからのメッセージが寄せられているのを、ゆつくり見ることができ、ラッキーでした。

千風子も千織の写真に反応して、「アッ！ お姉ちゃんよ、ママ！ はやく、お姉ちゃんに、チカコ会いたいなアッ……」とはしゃぎだしたのですが、この日は、千織は農家の里親さんの家にホームステイしていましたので会えず、楽しみは明日の運動会までおあずけとなりました。

いよいよ、運動会当日。千織は島根に戻って三週間しか経っていないのに、千織に会う事がとても新鮮な空気に包まれています。

全校小中あわせて百人近くの児童・生徒が、広い運動場のなかを一人ひとり、自分の役割を熟知しているように、誰一人遊びまわる子はいなく、みな、それぞれに、開会まえの時間を懸命に動き回って、地域のみなさんと一体となって、準備をしておりました。千織たちは、児童席のテントのなかの児童椅子の整列と、椅子の背に氏名札を貼っていました。

い！」の連発で、太鼓の音は私の魂に響き渡ってききました。

子どもたちの手のひらはママが何度もつぶれて硬くなっていました。中にはママが潰れ血が出ている子もいました。

OBも一緒に太鼓を叩いたり踊ったりと、楽しく温かいものを感じました。収穫祭はOB（卒園生）も地方から三十世帯も参加して下さり、在園家族を含めば百名以上の方がセンターに宿泊されていました。

同窓会のように盛り上がり、農家の父さんと母さんと懐かしそうに話す声。センターの指導員さんや在園生と戯れる姿は何とも言えない光景で、見ているだけで幸せな気持ちになりました。

今回、収穫祭に参加して感じたことは、三瓶に行き八ヶ月経った千織の顔、表情、態度が変わった事です。自信に満ち溢れ、生き生きとし、しっかりと自分を出しているのです。

もうホームシックで泣いたりしていません。

千織に「来年は、どうしたいの……？」と聞いてみると、島根弁で「どがしうかなあ……」と笑いながら「来年も三瓶に残りたいなあ」と言っていました。

私は、千織が三瓶に残りたいのであれば、来年も継続

させたいと思いました。

それは、この収穫祭での千織の成長とOBの方を見ていると、三瓶で生活することが、今の千織が求め必要としていることが私にはよく判り、千織には一番良い環境だと確信したからです。

三瓶で留学生とお互いを認め合い、絆を深め、農家体験ではお米を作ったり里親さんにいろんな事を教えてもらい、自然と触れ合いながら生きる力を育てることは、今の地元では出来ないこと。

小学生のうちからこの山村留学を体験できることは、貴重な意義のある「心の財産」になると、私は感じています。

二年間も小学生が親元離れて生活することに対して、山村留学を経験していない親御さんは「それは、どうなんだろう……」と思われる方もきっと居られることだと思います。

でも私は他人ひとから何を言われても、どんな風に思われても、千織の答えが「三瓶に残りたい」のであれば、その気持ちを応援したいと思います。千織は私の大切な子どもです。離れて暮らすことが辛い訳はありません。

けれども寂しさよりも、千織にとってどの環境の中で育つことがこの子の為になるのか……を大切にしていきたいのです。

千織は言っていました。「今年是一年目だったからホームシックになり、《こんなに……》と言うほど、泣いた。家族のことが心配で毎日泣いた。センターで泣けないから学校のトイレや農家さんの家で泣いた。でも、今の私はもう泣かない。来年残ったら二年目だし、新しい留学生に私が学んだことを教えてあげたい」

山村留学八ヶ月にして、

こんなに精神的にも成長して強くなった千織に、私は、心から感心しました。最初は、山村留学に對して不安や迷いもありました。地方各地から留学生が集まってくるので生活環境の違い、個性もさまざまです。

その中で自分ひとりの我が儘、自己中心的な行

動は認められません。他人ひとの気持ちを考え、譲り合い、助け合い、協力しなければ生活ができません。それに洗濯もアイロンも自分でしなければいけません。

千織は一年間も大丈夫なんだろうか。

それに親として、小学生のうちから親元を離して大丈夫だろうか……など、いろんな葛藤がありました。それが、四月から八ヶ月経ち、千織の成長に関わってくださる方々の温かさを実感した今、「思い切って行かせて良かった」と、自信をもって言えます。

千織は十一歳です。人生の中で十一歳のこの経験は、きっとこれからの人生に大きな自信に繋がることと思います。

命の大切さ、生きていく上で、人として大切なことを身体で感じ取っていることと思います。

私自身も、幾つもの有り難さ、大切さに気付かされました。そして千織を通じて東京、大阪、北海道など各地からの留学生と出会い、保護者の皆さんとの出会いを嬉しく、有り難く思っています。

ありがとう、千織。千織のおかげで私も貴重な体験をさせてもらっています。里親の父さん母さんも私にとっても父母のように三瓶が心のふるさとのように思えます。



個人体験発表
「子オメル植物標本室バイ!!」

盛り上がる収穫祭
山留の友達と笑顔で



それから、千織のことをわが子ながら賞賛し、誇りに思います。
泣いた分だけ強くなり、楽しいことはそれ以上あるでしょう。
山村留学卒業の時の感動は三瓶山よりも遥かに大きいからね！
楽しみながら頑張れ組織を応援しているからね。
お母さんは、いつも千織を応援しているからね。

(おわり)

追伸……早起きが苦手な私ですが、センター宿泊時は五時に目が覚め、六時になると当番の子が「起床の時間になりました」と放送を流し、エンヤの曲が流れ、気持ちのいい朝を迎えることができました。

□◆収穫祭プログラム◆□

十一月二十日(土)

10:00 農事暦発表・感謝の式……センター前庭

13:30 個人体験・研究発表……研修室

15:30 全体発表……研修室

□劇「浮布の池」

□太鼓・踊り

17:30 会食会……研修室

十一月二十一日(日)

10:00 模擬店開始

……センター前庭

11:00 バザー開始

……学習室

14:30 収穫祭終了



収穫祭の準備完了！
(右端が加來千織・小5)

平成二十二年度

三瓶こだま学園「収穫祭」にて

《島根県大田市山村留学センター》主催

主任指導員 稲井裕介

「あいさつ」

第7期生が四月に入園して以来、八ヶ月が過ぎようとしています。この八ヶ月の間に、学園生は地域の皆様方をはじめ、多くの方々にお世話になり、あたたかく見守られながら、たくさんの方々の貴重な体験を積み重ねて参りました。皆さまにご覧いただく学園生の姿からは、そのような中で過ごしてきたからこそ、心と身体の成長を感じていただけるかと存じます。

学園の収穫祭の「収穫」には、田畑の作物の収穫はもちろんのこと、学園生一人ひとりの「心の収穫」という意味も込められています。学園生に多くの心の収穫をもたらしてくださったすべての方々と大田市の豊かな自然に感謝の気持ちをこめて、学園生が精一杯発表いたします。学園生の「心の収穫」を、どうぞ最後までごゆっくりご覧下さい。

「個人体験・研究発表」

「完成！」

「チオメルの植物標本室ばいッ！」

〈小・五年〉加來千織

I この研究をした理由

元々、あまり花や草に興味がなかったけれど、北三瓶に来てから、面白い花や葉っぱがいっぱいあったので、それを見てもっと知りたいと思ったから植物について調べました。

またお母さんがお花の絵を書くことが好きで、お母さんにも三瓶の草花を見せてあげたい、そのために形に残したいと思って、標本を作りました。

II 方法

①興味を持った葉っぱとか花をとってくる。



いろいろな場所から草花を集める。

毎日の通学で通る通学路に加えて、いつもは通らない道を歩いてみたり、お休みの日には、近所の農家さんのお庭でとらせていただいたり、と、いろいろな場所、いろいろな草花を集めました。

② 博物館で、標本の作り方を教えてもらう。

【サヒメル】の学芸員さんに、作り方を詳しく教えてもらいました。博物館には、標本を保存している部屋があり、そこでいろいろな草や木の標本を見せてもらいました。植物の標本は、普通押し葉にしていること、そうするとずっと長い期間保存ができることが分かりました。また、標本を作っているところも見せていただき、植物を台紙に貼るコツなどを教えていただきました。



新聞紙交換中。
これがなかなか大変！

③ 押し花を作る。

とってきた植物を新聞紙にはさみ、さらに水を吸い取らせるための新聞紙を間にはさんで、重しを載せて、乾燥させました。水を吸い取らせる新聞紙は、一週間ほど毎日交換する。また、センターには乾燥室があるので、乾燥室に置

丁寧に貼ってまあす！



いて乾燥させた。葉っぱやお花を新聞紙にはさむ時に、曲がったりすることがあるので気がつき次第きれいにのぼすように注意しました。

④ 台紙に押し花を貼って、標本を作る。

乾燥した植物を丈夫な紙（台紙）の上に、半紙を細く切った紙に糊をつけて貼り付けます。台紙は、いろいろな色画用紙を使ってみました。その結果、青色が見やすかったので、青色の画用紙を中心に使いました。

⑤ 図鑑で名前や特徴を確認する。

標本には、ラベルが必要なので、センターにある図鑑や図書館から借りてきた図鑑でその植物の名前を探しました。また、調べた名前、植物を採った場所、日にち、自分が面白いことなどをラベルにまとめ、植物といっしょに台紙に貼りました。

これで、標本の完成です！

III 調査結果

全部で二十種類くらいの標本を作りました。数種類の

図鑑を使って調べましたが、名前が分からなかったものもありました。ここでは、特におもしろいと思ったものを数種紹介します。

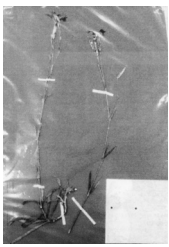


《セイタカアワダチソウ》 採集日：2010・11・03

採集場所：通学路

特徴：お花の色が黄色で、上向きにお花がたくさんついている。

採集日：2010・11・07



《ナデシコ》

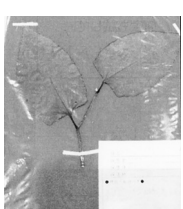
採集場所：黒谷家の近く

特徴：すごくやせっぱちなのにな、とてもお花が大きかった。

採集日：2010・10・18

採集場所：通学路

特徴：葉っぱの付け根がまっすぐな直線になっていた。葉っぱの形は人の顔の輪郭みたい。



《イタドリ》

《クジャクシダ》



採集日：2010・10・07

採集場所：通学路

特徴：小さな葉っぱ一枚一枚のふちがふわふわとした形をしている。

採集日：2010・10・14

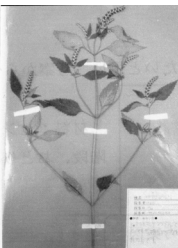


《ヒメジオン》

採集場所：通学路

特徴：お花の花びら一枚一枚がとても細くて、羽のようだ。

採集日：2010・10・14



《ナギナタコウジュ》

採集場所：センター前の大きな道路沿い

特徴：お花が片側に並んでいた。

IV 感想

私は、初め、葉っぱのことがあまり好きじゃありませんでした。でも、ちゃんと見てみると、すごくかわいい



ところ、おもしろいところがたくさんあって、葉っぱや花にとっても興味をもちました。

やり始めて、めんどくさかったことがたくさんありました。それは押したあとの新聞紙がえ、種名探し、台紙に貼ることで、とても地道な作業でした。でも、その作業で、とても嬉しい時がありました。それは種名が分かり、標本が出た時で、すごく達成感がありました。私は、その時からこの個人研究にして良かったと思うようになり、個人研究が発表できて、とてもうれしいです。

最後になりましたが標本について教えてくださったサヒメルの井上さん、お庭の草花を採らせてくださった黒谷さんありがとうございます。

(平成二十二年十一月二十一日)

加來千織・発表。